

別記様式第1号（第4条関係）

環の拠点創出事業準備委員会 開催結果の要旨

会 議 名	第2回 木津川市環の拠点創出事業準備委員会		
日 時	平成25年3月27日（水） 午後3時から午後4時50分	場 所	木津川市役所 4階4-4会議室
出 席 者	委 員	<p>■山崎 正史（会長）、■岡井 有佳（副会長）                  ■福井 保知、□川邊 隆司、■坂本 利正、■杉野 耕造、                  ■辻 忠、■出栗 伸幸、■花田 啓、■藤原 久博（代理出席：矢嶋美千代）、■吉村 由美子                  ※□：欠席者</p>	
	その他出席者	<p>【オブザーバー】                  京都府総務部自治振興課 参事 藤岡 栄                  【市関係部署】                  山城支所 支所長 松井 功                  生活環境部観光商工課 課長 武田 浩文</p>	
	事 務 局	尾崎課長、奥田係長、西村主任	
議 題	<p>1. 開会                  2. 会長挨拶                  3. 議事                  (1) 報告事項                  ・第1回準備委員会現地視察結果（資料1、別紙1）                  ・自転車利用者アンケート結果（資料1、別紙2、別紙3）                  (2) 協議事項                  ・施設選定について（資料1）                  ・設置方法について（資料1）                  ・導入機能について（資料1）                  4. その他                  5. 閉会</p>		
審議結果要旨	<p>1. 開会                  事務局より、開会を宣言した。                  2. 会長挨拶                  議事に先立ち山崎会長から挨拶があった。                  3. 議事                  (1) 報告事項                  ・第1回準備委員会現地視察結果（資料1、別紙1）                  事務局より、資料1・別紙1を基に説明し質疑応答を行った。                  ・自転車利用者アンケート結果（資料1、別紙2、別紙3）                  事務局より、資料1・別紙2・別紙3を基に説明し質疑応答を行った。</p>		

	<p>(2) 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設選定について(資料1) 事務局より、資料1を基に説明し質疑応答を行った。</li> <li>・設置方法について(資料1) 事務局より、資料1を基に説明し質疑応答を行った。</li> <li>・導入機能について(資料1) 事務局より、資料1を基に説明し質疑応答を行った。</li> </ul> <p>4. その他 次回の委員会は、事務局より後日、通知することとした。</p> <p>5. 閉会</p>
<p>審議経過要旨</p>	<p>1. 開会 審議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 会長挨拶 審議結果要旨のとおり。</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回準備委員会現地視察結果(資料1、別紙1) 事務局より、資料1・別紙1を基に説明し質疑応答を行った。</li> <li>・自転車利用者アンケート結果(資料1、別紙2、別紙3) 事務局より、資料1・別紙2・別紙3を基に説明し質疑応答を行った。 主な意見・質疑等は次のとおり。 (○…質疑・意見、→…質疑に対する返答)</li> </ul> <p>○サイクリングの目的は何か。 →アンケート結果にもあるように「走ることが好き」が約7割であった。</p> <p>○施設利用を考えた場合、自転車利用者はほとんどがリピーターの方であるので、他の人も使えるような施設に幅を拡大していくことが必要ではないか。調査としては、自転車利用者へのアンケートを予定している他、地域資源について事務局で調査を行い、この委員会で議論をお願いしたい。</p> <p>○団体用アンケートで、初心者なのに自転車道を走っていることに驚いた。 →講習会に来られている人は、自転車に興味があったり、趣味としておられる方が多かった。また講習会の内容も、日ごろから走っている人も為になるものであった。</p> <p>○講習会の自転車は高機能な人が多いのか。 →サイクリストとサイクリストではない方の自転車のイメージは異なる</p>

る。自転車道を走っているのはスポーツサイクリングであり、そういう方を対象とした人の講習会である。長距離であっても楽に乗れる方法や楽しみ方が内容である。

○茶問屋ストリートには、自転車だけでなく、車やハイキングなどの方も訪れている。ハイキングの方などからは、周辺の観光情報が少ないという声も聞くので、そういった方も対象にしては。

○自転車道沿いのグラウンドで遊んでいる子どもも多い。例えばそういった家族連れの方にもPRするための看板やアピールが必要ではないか。

○市民は、自分の街を見慣れてしまっているため、あらためて少し意識してしまうような取組はどうか。

○サイクリングの楽しみには、峠のアップダウンを楽しむダウンヒルもある。

## (2) 協議事項

### ・施設選定について（資料1）

事務局より、資料1を基に説明し質疑応答を行った。

主な意見・質疑等は次のとおり。

（○…質疑・意見、→…質疑に対する返答）

○一か所に絞ってもいいのか。

→いくつか候補をあげるというのもあるが、この施設で上手く活用していきたい。

○建築基準法について整理はどうなっているのか。

→用途は倉庫であり、拠点づくりに際しては、一般的には集会所のような機能を持つため用途変更が必要となる。

ただし京都府に確認したところ、面積が100㎡未満であれば、届出は必要ないということであった。また、公共的な施設になるので、耐震や採光等の一般的な基準を準用してはという意見をいただいている。

○都市計画の用途地域は何か。

→近隣商業である。

○この場所は、いろんな条件が整っている。観光・商業・サイクリングなど、複合的にするものでいいものになるのでは。

○資料にある地域間交流とはどういったイメージか。

→シティサイクルでも気軽に来ていただくような地域内交流をイメージしている。

○この倉庫は米の倉庫として活用してきた。JA京都やましろでは、最も古く貴重な施設だと感じている。なお内部の柱は、米貯蔵のための風通しと壁を傷めないようにある。

○一度耐震診断を受けてはどうか。

→不特定多数の方が利用される施設であり、行政が取り組むものである

ので調査はしていきたい。

○木を活用した耐震設計も可能である。限界耐力計算法を用いてはどうか。

○自転車を導くルートであるが、スピードの事を考えて、国道を通るルートも含めてはどうか。

・設置方法について（資料1）

・導入機能について（資料1）

事務局より、資料1を基に説明し質疑応答を行った。

主な意見・質疑等は次のとおり。

（○…質疑・意見、→…質疑に対する返答）

○拠点の所でPR板が必要である。拠点から30分歩けば色々あるのでポイント的でもいいので、情報掲示が必要である。

○安全性は大丈夫なのか。自転車だけでも、車・自転車・歩行者の対応を考える必要がある。ただしこれは全国的にも難しい課題である。

○施設となれば、人を置いておく必要がある。平日は地域の人を呼び込むことが必要であり、直売所的なものが必要ではと思う。観光客については、歩ける範囲内にも環濠集落をはじめ、ポイントはあるので、そういった所も含めた仕掛けを考えることも必要である。

○年中開けていて経営的に大丈夫なのか心配である。

○流れ橋は全国的にも有名である。そういった観光スポットがあるのは大きい。また、八幡市の場合は、レンタサイクルの取組をやっており、流れ橋の周辺でも見る。

○ぶらりと周辺を回れるような機能も入れてはどうか。

○行政がどこまで関わるのか、また民間はどこまでやるのか、その辺りも考える必要があるのでは。

○委員会の役割の中で調査及び審議とあるが、調査の取組イメージはどのようなものか。

○花野果市の運営は会員で行い、軌道に乗っているが、拠点で同じような施設となれば、この地域の特徴があるものを扱う必要がある。

○花野果市でもPRいただき、この施設ではお茶をもっとPRしてもいいのでは。

○スポーツとして来る人と、そうでない人の二本立てで考える必要がある。

○自転車に乗る方のペットボトルの中身は何か。

→スポーツドリンクが基本である。自転車に乗っているときは、スポーツドリンクであるが、休憩するときはお茶も飲む。

○嵐山であれば、バイクスタンドのある店に、自転車に乗る人が集中している。

○案内について、安全走行上おすすめできないコースという表示した地図

	<p>などを作ってもいいのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○レンタサイクルの自転車も高価なものにしてはどうか。</li> <li>○レンタサイクル等は、競輪の補助金を活用する方法もある。</li> <li>○市内だけでなく近隣市町とも協力して、スタンプラリーを導入し、そこにプレゼントがあれば人は多く集まる。</li> <li>○自転車のアドバイスをボランティアでやることは可能か。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→自転車のサークル的なものは、世話人がいて、企画したイベントに人が集まってくるようなイメージである、そういった協力は難しい。</li> <li>→調査としては、自転車利用者へのアンケートを予定している他、地域資源について事務局で調査を行い、この委員会で議論をお願いしたい。</li> </ul> </li> <li>○施設の位置からも広告塔が必要である。</li> <li>○利益が出るような仕組みを作って、継続性を図っていくことも大事。</li> <li>○自転車に乗る人はひとりが多い。休憩中に仲間ができ、団体でたまに一緒に走るような人が多い。</li> <li>○自転車にもSOSサービスがあってもいいのでは。</li> <li>○たけのこを掘って、みんなでバーベキューのような体験型プログラムも人気がある。</li> <li>○公共がやるのであれば、一部の人でなく、もっと多くの人が利用できるように初期の目的に戻り再整理することも必要であり、そこで全体が協力して事業を進める仕組みを考えるべきである。</li> </ul> <p>4. その他    次回の委員会は、事務局より後日、通知することとした。</p> <p>5. 閉会</p>
<p>その他特記事項</p>	